

# 明けましておめでとうございます

## 次代を担う子どもたちへ



(写真5) モニ1000哺乳類調査自動カメラが捉えたイノシシ

昨年におけるNPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会(てんたの会)の活動について、一年を振り返ってみます。

当会の拠点である「東谷津ほとけどじょうの里」では、2月にトラスト1号地に隣接する第2号地を買取り、3月と5月にこの場所で薪割り体験エコツアーを開催しました。10月には第6回となります「てんた里山バザール」を開催し、多くのハイカーや市民が立ち寄って下さり、好天に恵まれた秋の一日を賑やかに過ごしました。12月には、新たに買い取った2号地の笹藪を皆で刈り取る「草刈りイベント」(写真1)を開催しました。大勢の方々に参加して頂き、篠竹で覆われていた場所が一挙に刈り取られ明るい里山空間が拓けました。

この東谷津のトラスト1号地は元々湿地ということもありますが、10月後半に続け様やって来た台風21号、22号の大量降雨のため、一部土手が崩れ、塞ぎ止められた小川が溢れ洪水状態となってしまいました。これまで整備してきた水路は壊され、溜池も土砂で埋まる事態(写真2・3)です。また一からの出直しとなり、里山の保全は根気よく続けなければならないことを痛感させられました。



(写真4) 「秋の野草観察会」



(写真3) 台風後土砂で埋まる



(写真2) 台風前の溜池



(写真1) 「草刈りイベント」

その他の活動では「ふるさと散歩」と銘打つ自然観察会を行っています。6月の「ホタル観察会」、9月の「秋の野草観察会」(写真4)など天覧山から多峯主山一帯の四季を楽しみながらの観察会を通して、貴重な自然を残していくことを伝えています。

てんた会員によるモニタリング1000調査は、環境省が主体で行っている全国1000カ所の自然環境モニタリングの一端を担っています。天覧山周辺に生息するチョウ、ホタル、カエル、カヤネズミ、野鳥、哺乳動物(写真5)、及び植物について調査を続けています。

里山は、人間が手を入れて行かなければ保たれません。自然の猛威や旺盛な植物の繁殖力、野生動物被害等とつきあいながらもこれを行っているのは、楽しませてもらう、癒されるといった気持ちがモチベーションとなっています。現在まで残してきた里山環境を次の世代を担う子ども達に引き継ぎたいと、毎年想いを新たにしています。

てんたの会 代表 浅野正敏

り考き信生切態魅の当主  
ましたし懸さをの館山  
ていて命を一大生の周  
おとい発一だ生の辺  
ます。おとい発一だ生の辺



目指すビジターセンターのイメージ

た館は自然分野の資料(動植物の標本など)を収蔵できる設備がないため、「自然の博物館」にはなれません。そのため自然分野に関しては、ビジターセンター的な活動に限定されますが、オープン後は飯能河原や天覧山・多峯主山など、感謝の念に堪えません。

常設展示リニューアルと自然の展示について  
飯能市郷土館 村上達哉

ただいま当館は常設展示改装工事のため休館しており、二〇一八年四月一日のリニューアルオープンにむけて頑張っているところです。

当館はこれまで歴史系の地域博物館として活動してきましたが、常設展示をリニューアルすることで大きく変わることがあります。一つは歴史の展示室がこれまで(四半世紀以上となります)に蓄積されてきた研究成果により一新されること、そしてもう一つは自然分野の展示など、飯能河原・天覧山周辺を紹介するビジターセンター的な機能を付加することです。

今回の改装を機に自然を加えることとした背景には、以前から当館の中での「豊かな自然がある飯能市の博物館が、自然を全く扱わなくとも良いものだろうか」という議論がなされてきたというこ

とが挙げられます。

しかしながら当館には自然分野の学芸員がおらず、担当している私も専門からは考古学です(幸いなことに今年度からは、植物について大学で学んできた本橋が非常勤ながら加わりました)。準備には苦労が絶えませんが、自然の諸分野で専門的に研究されている先生方、飯能河原や天覧山・多峯主山の自然に詳しい方々(天覧山・多峯主山の自然を守る会の会員の方もおられます)から助けをいただき、どうかここまで来ていただいたことを感謝いたします。現地での動植物などの知識を教えてください、貴重な写真のデータをご提供いただければ、感謝の念に堪えません。

当館は自然分野の資料(動植物の標本など)を収蔵できる設備がないため、「自然の博物館」にはなれません。そのため自然分野に関しては、ビジターセンター的な活動に限定されますが、オープン後は飯能河原や天覧山・多峯主山など、感謝の念に堪えません。

